

# 串本町 古座川

# 洪水ハザードマップ

保存版

## わが家の防災メモ

わが家の避難先(親類宅・避難所など)	家族が離ればなれになったときの集合場所

家族の名前	血液型	会社・学校の電話番号	携帯電話番号

## 緊急時の連絡先

名称	電話番号	名称	電話番号
串本町役場	0735-62-0555	古座消防署	0735-72-0119
串本警察署	0735-62-0110	くしもと町立病院	0735-62-7111
串本町消防本部	0735-62-0119		

## 情報の入手先

**国土交通省 防災情報提供センター**  
国土交通省が保有する防災情報を集約して、わかりやすく提供しています。

URL <http://www.mlit.go.jp/saigai/boisajoho/>

**串本町**  
串本町の避難・防災に関する情報などを提供しています。

URL <http://www.town.kushimoto.wakayama.jp/>

**気象庁**  
全国の気象や災害・洪水に関する情報などを提供しています。

URL <http://www.jma.go.jp/jma/index.html>

**和歌山県 防災わかやま**  
和歌山県の防災関連情報や関連サイトなどの情報を提供しています。

URL <http://www.pref.wakayama.lg.jp/bousai/index.html>

**和歌山県防災ナビ(アプリ)**  
気象警報や避難勧告などの情報がスマートフォンに通知される機能や、避難先の検討に活用できる機能があります。

**防災わかやまメール配信サービス**  
気象情報、河川水位情報、雨量情報、避難勧告などの情報を携帯電話やパソコンに電子メールでお知らせするサービスです。

(登録方法)  
① [regist@bousai.pref.wakayama.lg.jp](mailto:regist@bousai.pref.wakayama.lg.jp)へメールを送信してください。  
② 押し返し、登録用メールが届きます。案内に従ってご登録ください。

## テレビによる情報の入手例

リモコンのdボタンを押して防災情報を見る

- NHK総合テレビを表示し、リモコンの「d(データ放送)」ボタンを押してください。
- リモコンの矢印で「安全・安心ポータル」に合わせ、「決定」ボタンを押してください。
- 串本町(テレビに設定している郵便番号で判定)から情報が発信されていれば、「避難情報(準備・勧告・指示)」「避難所開設情報」ボタンが赤くなるので、選択するとそれぞれの情報が表示されます。  
※県内のどこ地域にも情報がない場合は、ボタンがグレーになります(選択できません)。

## 防災行政無線「戸別受信機」による情報の入手

- 緊急情報や町内放送を屋内で聞くことができます。
- 雨や風が強い日でもはっきり聞こえます。
- 住民登録のある世帯に1台、無償貸与(2台目や事業所は有償)します。



## 大雨・洪水について

### 大雨・洪水に関する注意報・警報について

和歌山管区気象台からは、次のような場合に注意報・警報が発表されます。

大雨注意報	洪水注意報	大雨警報、洪水警報	大雨特別警報
大雨による災害(土砂災害や低地の浸水など)が発生するおそれがあるとき。	大雨、長雨などにより河川が増水し災害が発生するおそれがあるとき。	それぞれ重大な災害が発生するおそれがあるとき。	警報の発表基準をはるかに超える災害が予想され、危険性が著しく高まっているとき。

このほか、数年に一度の猛烈な雨が観測された場合には、気象台から、「記録的短時間大雨情報」が発表されます。この情報が発表された地域では、近くで災害の発生につながる事態が生じていることを意味しています。

大雨などのときは、テレビラジオなどより最新の注意報、警報の発表状況を確認するようにしましょう。テレビラジオの他には、NITテレホンサービス(17)や気象庁ホームページ(<http://www.jma.go.jp/>)でも確認できます。※串本町に注意報・警報が発表される際の雨量基準値などについては、気象庁ホームページで知ることができます。

### 特別警報が発表されたら → ただちに命を守るための行動をとってください!

特別警報が発表された場合、お住まいの地域は数十年に一度しかないような非常に危険な状況にあります。周囲の状況や、町から発令される避難指示(緊急)・避難勧告などの情報に留意し、すぐに避難場所へ避難するか、すでに外出が危険な状態に達している場合には、無理をせずに家の中より安全な場所にとどまる等、ただちに命を守るための行動をとってください。

### 特別警報の発表基準

現象の種類	発表基準
<b>大雨</b>	50年に一度の大雨(48時間降水量451mm、3時間降水量154mm)となり、周辺でも同程度の大雨が降り続く予想される場合。
<b>暴風</b>	暴風が吹くと予想される場合。
<b>高潮</b>	数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により、高潮になると予想される場合。
<b>波浪</b>	高波になると予想される場合。
<b>暴風雪</b>	数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により雪を伴う暴風が吹くと予想される場合。
<b>大雪</b>	数十年に一度の降雪量となる大雪が予想される場合。

※発表にあたっては、降水量、積雪量、台風、最大風速などについて過去の災害事例に照らして算出した客観的な指標を設け、これらの実況および予想に基づいて判断をします。

●津波・地震

津波・地震については、従来からの警報のうち、危険度が非常に高いレベルのものを特別警報に位置づけますが、名称に「特別警報」は用いられません。「〇〇特別警報」という表現ではなく、従来の名称のまま発表します。例えば、大津波警報が発表されたときは、それが津波に関する特別警報が発表されたという意味になります。

現象の種類	発表基準
<b>津波</b>	高いところで3メートルを超える津波が予想される場合。⇒大津波警報を特別警報に位置づけず。
<b>地震(地震動)</b>	震度6弱以上の大ささの地震動が予想される場合。⇒緊急地震速報(震度6弱以上)を特別警報に位置づけず。

※噴火警戒レベルを運用している火山では「噴火警報(居住地域)」「噴火警戒レベル4または5」を、噴火警戒レベルを運用していない火山では「噴火警報(居住地域)」「居住地域地震警戒」を特別警報に位置づけています。

## 災害への備え

### 避難行動判定フローを確認しましょう

「避難行動判定フロー」を「ハザードマップ」とあわせて確認し、居住する地域の災害リスクや住宅の条件等を考慮したうえでとるべき避難行動や適切な避難先を確認しておきましょう。

**避難行動判定フロー** あなたがとるべき避難行動は?

ハザードマップで自分の家があるか確認し、印をつけてみましょう。 ※ハザードマップは浸水や土砂災害が発生するおそれの高い区域を着色した地図です。着色されていないところで災害が起こる可能性があります。

家がある場所に色が塗られていますか? **いいえ** → 色が塗られていなくても、周りと比べて低い土地や崖のそばなどにお住まいの方は、市区町村からの避難情報を参考に必要に応じて避難してください。

**はい** → 災害の危険があるので、原則として、自宅の外に避難が必要です。 **例外**

- ▶ 浸水の危険があっても、次のような場合は自宅に留まり安全確保をすることも可能です。
  - ▶ 洪水にお住まいが狭い、又は、遊樂してしまおそれの高い区域の外側である。
  - ▶ 浸水する家より高いところにいる。
  - ▶ 浸水しても水・食糧などの備えが十分にあり、水がひくまで我慢できる。
- ▶ 土砂災害の危険があっても、十分堅牢なマンション等の上層階に住んでいる場合は自宅に留まり、安全確保をすることも可能です。

ご自身、または、一緒に避難する方は避難に時間がかかりますか? **いいえ** → 安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか? **はい** → 安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか? **いいえ** → 安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか? **はい** → 安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか? **いいえ** → 安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか?

警戒レベル3が出たら、安全な親戚や知人宅に避難しましょう。(日頃から相談しておきましょう) | 警戒レベル3が出たら、市区町村が指定している避難所に避難しましょう。 | 警戒レベル4が出たら、安全な親戚や知人宅に避難しましょう。(日頃から相談しておきましょう) | 警戒レベル4が出たら、市区町村が指定している避難所に避難しましょう。

### 非常持ち出し品チェックリスト

避難が必要になった場合に備えて、非常持ち出し品を準備しましょう。リュックサックなどにまとめて、いつでも持ち出せる場所に保管しておきましょう。 \*日頃から、7日分の食料と飲料水を、非常備蓄品として常備しておきましょう。

<b>水・食料</b>	飲料水…500mlペットボトル程度 乾パン・クラッカー・缶詰など、火を通さないでも食べられるもの	<b>救急・安全関係</b>	ヘルメット(防災ずきん) 救急医薬品(絆創膏・傷薬・包帯) 病人やお年寄りの常備薬 マスク・消毒薬・体温計
<b>貴重品</b>	現金 預金通帳、印鑑 権利証書 免許証	<b>日用品</b>	筆記用具 ナイフ、缶切り ニール袋 懐中電灯 携帯ラジオ 電池など
<b>衣類など</b>	衣類(上着・下着) タオル	<b>その他</b>	洗面用具(歯ブラシ・石けん) ほ乳瓶 紙おむつ メガネ

※風呂の残り湯は捨てずに溜めておきましょう。水洗トイレの雑用水や消火用水など、数回以上の生活用水として有効に活用できます。

### 内水氾濫と外水氾濫

水害には、降った雨が水路や下水道などで排水しきれなくなることにより起こる氾濫(内水氾濫)と、川の堤防が壊れたり、水があふれたりして発生する氾濫(外水氾濫)があります。まずは、水害の発生するしくみを理解して、避難場所等まで安全に避難できるような経路を確認しておきましょう。

その場で雨が降っていても、川のの上流で降った大雨により、下流で氾濫が発生することがあります。

### 風が強いとき・大雨のとき

毎年のように台風や集中豪雨によって浸水や土砂災害などの被害が発生しています。しかし、地震と違い、風水害はある程度事前に発生を予測することができます。危険が迫ったら早めに対応しましょう。雨風が強まってきたら、まずテレビやラジオ、インターネット等で発表される気象庁からの注意報・警報・特別警報や、市区町村などからの避難に関する情報に注意しましょう。不要不急の外出は控え、危険な場所には近づかないようにしましょう。

### 風が強いとき

**室内では** ●風圧や飛来物で、窓ガラスが割れ、破片が吹き込む危険があります。 ●外側から板でふさいだり、内側からガムテープを×印に貼り、カーテンを引いておきましょう。

**路上では** ●看板が飛んだり、街路樹が倒れたりする危険があるので、近くの頑丈な建物の中に避難しましょう。

**海辺では** ●海中への転落や高波に巻き込まれる危険があります。沿岸に近づかないようにしましょう。 ●強風、豪雨時はサイレンなどの警報が聞こえないこともあるので十分に注意しましょう。

### 大雨のとき

**室内では** ●床下・床上浸水の危険があります。家財道具や貴重品を高い場所に移動しておきましょう。 ●雨は降り続けていても、サイレンなどの警報が聞こえたら、すぐ避難しましょう。 ●地下には避難しないようにしましょう。

**車の運転中は** ●豪雨で視界が悪くなると非常に危険です。あせらずに高台に移動しましょう。 ●浸水でエンストしたときは、無理に再始動させるとエンジンを傷めてしまいます。

**河原では** ●急な増水や土砂災害の危険があるので、河川敷から堤防の外に移動しましょう。 ●雨が降っていても、サイレンなどの警報が聞こえたら、すぐ避難しましょう。

### 土砂災害(特別)警戒区域

和歌山県が実施した砂防基礎調査によって、2種類の土砂災害のおそれのある範囲(土砂災害警戒区域と土砂災害特別警戒区域)が明らかにされています。

**土砂災害警戒区域とは…**  
急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、住民等の生命または身体に危害が生じるおそれがあると認められる区域であり、危険の周知、警戒避難体制の整備が行われます。

**土砂災害特別警戒区域とは…**  
急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、建築物に損傷が生じ、住民等の生命または身体に危害が生じるおそれがあると認められる区域で、特定の開発行為に対する許可制・建築物の構造規制等が行われます。

### 土砂災害の種類と前兆現象

大雨や台風、地震が起きたときには、地盤がゆるみ、がけ崩れ・土石流・地すべりといった土砂災害を引き起こす可能性があります。土砂災害から身を守るためには、まず自分の家の周りに危険がないか確かめることが重要です。また、土砂災害には前兆現象があります。前兆現象を確認したら、速やかに避難するとともに、串本町へご連絡ください。

**がけ崩れ(急傾斜地の崩壊)**  
土砂災害特別警戒区域  
土砂災害警戒区域  
地中にしみ込んだ水分により、急な斜面が突然崩れ落ちる現象です。突然起きるため、家の付近で起きると逃げ遅れる人も多く、死者の割合も高くなります。

**土石流**  
土砂災害特別警戒区域  
長雨や集中豪雨などによって、山や川の石や土砂が、大量の水と一体となって一気に下流へ押し流される現象です。

**地すべり**  
土砂災害特別警戒区域  
大雨や長雨等により雨水が地盤にしみこみ、水の方によって持ち上げられた地面が広い範囲にたたりゆっくりと動き出すものをいいます。

**避難場所等への移動がどうしても困難な場合は…**

家の2階以上へ(がけと反対側)  
それが困難なら  
がけから離れた部屋へ

**土砂災害から身を守るポイント**

- 住んでいる場所が「土砂災害(特別)警戒区域」かどうか確認してください。
- 雨が降り出したら土砂災害警戒情報に注意してください。
- 危険を感じたら早めに避難してください。

### 土砂災害警戒情報とは

土砂災害警戒情報は、大雨警報の発表中に、土砂災害発生の危険度が高まったとき、和歌山県と和歌山地方気象台が共同で発表する情報です。土砂災害警戒情報が発表されたら避難情報を発令しますので、土砂災害に厳重に警戒し、安全な場所へ避難してください。また、土砂災害警戒情報が発表されていなくても、地形や地質の条件により土砂災害が発生するおそれがあるため、その他の防災情報や土砂災害の前兆現象などにも十分注意しながら、早めに避難行動をとってください。

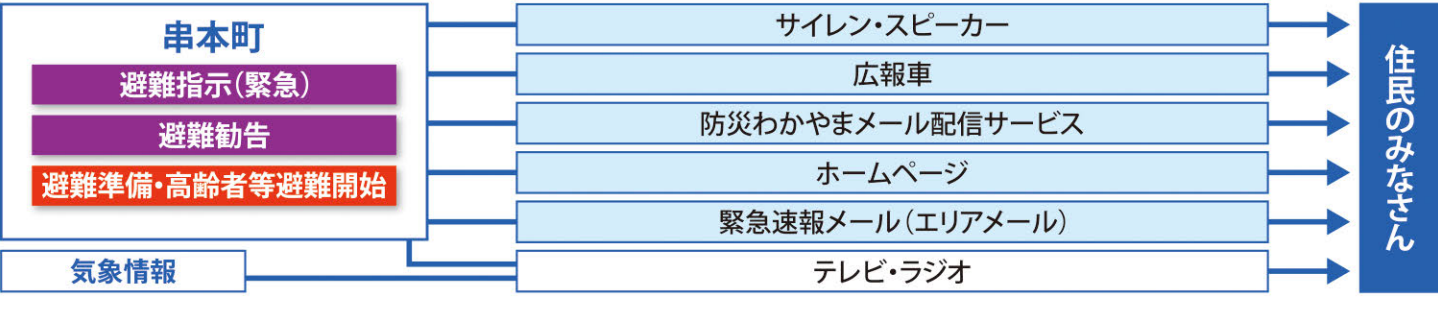
▼土砂災害の危険度情報は、和歌山県がインターネットで公開している「和歌山県土砂災害警戒情報」で確認することができます。

和歌山県土砂災害警戒情報 検索 <http://kasensabo02.pref.wakayama.lg.jp/>

## 避難情報とは

### 災害時の情報伝達方法

避難情報等は下図のような経路で住民のみなさんに伝達されます。



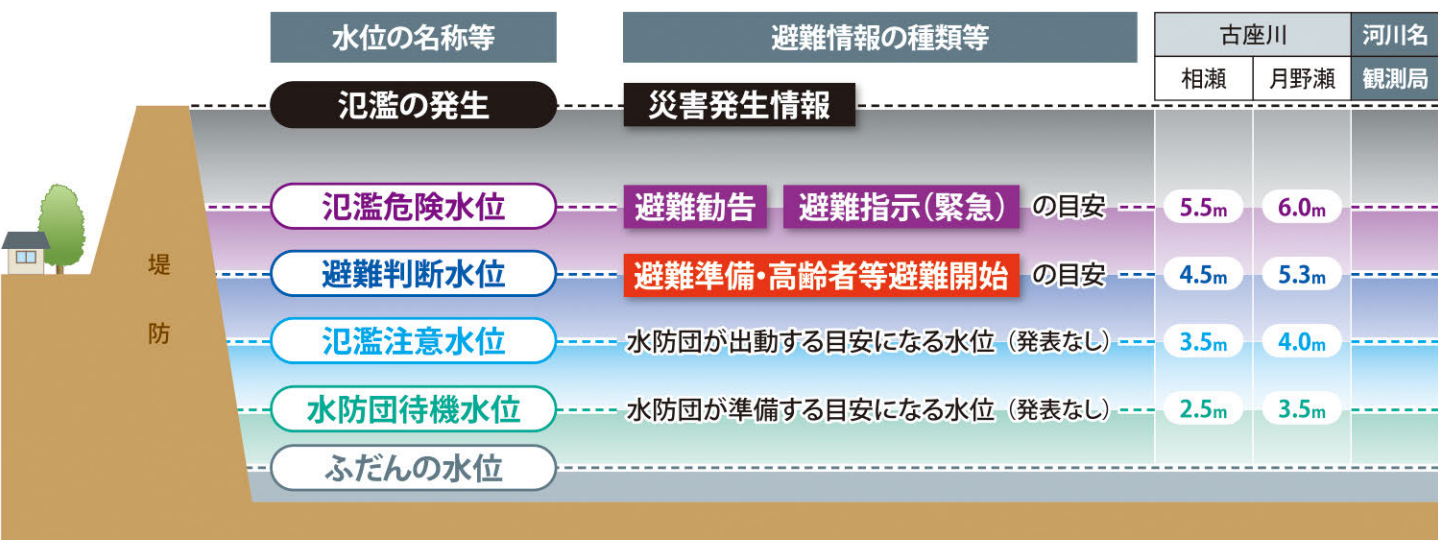
### 避難情報の発令

避難情報等(串本町が発令)	警戒レベル	防災気象情報(気象庁が発令)	とるべき行動
災害発生情報	警戒レベル5	大雨特別警報	すでに災害が発生している状況です。この段階では安全な避難が難しい場合があります。空振りをおそれず、レベル3・レベル4の段階で安全に避難を終えましょう。
避難指示(緊急)	警戒レベル4	土砂災害警戒情報	いままぐ安全な場所へ全員避難。速やかに指定避難所に避難しましょう。指定避難所までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や、自宅内より安全な場所に避難しましょう。
避難準備・高齢者等避難開始	警戒レベル3	大雨警報	高齢者や要介護者等は避難。高齢者、障がいのある方等、避難に時間のかかる方とその支援者は避難を開始しましょう。その他の方は、避難の準備を整えましょう。
	警戒レベル2	洪水注意報、大雨注意報等	ハザードマップなどで避難行動を確認しましょう。災害の危険性のある区域、避難場所、避難経路、避難のタイミングを確認してください。
	警戒レベル1	早期注意情報	最新の防災気象情報などを確認しましょう。災害への心構えを高めてください。

※今後、国により避難情報が改正される可能性がありますので、最新の情報を確認してください。

### 河川の水位情報

河川の水位が上昇して洪水のおそれがあるとき、避難情報を発令します。各避難情報は、各河川で定められた水位の基準に達するなどの状況から判断し、発令します。



## 避難時の心構え

### 避難の心得

いざという時のために、日頃から避難に必要なものを整理し、避難の手順について話し合っておきましょう。

**状況により、すばやく避難しましょう!**  
町から情報が来る前でも、雨の状況などから判断し、避難しましょう。

**外出中の家族には連絡メモを残そう!**  
どこどこへ避難するといったようなメモを残しておくことでよいでしょう。

**住所、氏名、連絡先などを記載した防災メモを持とう!**  
特に高齢者や子どもは、事前にメモを用意し、身につけて避難しましょう。

**集団で助け合おう!**  
単独での行動は避け、近所の人たちと集団で決められた場所へ避難しましょう。

**車での避難は控えて!**  
車は、約30cmの浸水で走行困難になります。車での避難は避けましょう。

**安全なルートで!**  
川べり、地下歩道などは避け、できるだけ安全な広い道を避きましょう。

**持ち出し品は最小限!**  
非常持ち出し品はリュックサックにまとめ、両手が自由に使えるようにしましょう。

**避難所では係の人の指示に従いましょう!**  
避難所に着いたら、住所、氏名を報告しましょう。

### 洪水時の避難

歩ける深さは約50cm。水深が腰まであるようなら無理は禁物です。早めに高所に避難しましょう。

水面下はどんな危険が潜んでいるかわからないので、長い棒を杖代わりにして安全を確認しながら歩きましょう。

裸足、長靴は禁物。長靴は脱げやすく危険なので避けてください。運動靴がよいでしょう。

はくれないようにお互いの体をロープで結んで避難しましょう。特に子どもは浮き袋等を使い、しっかり安全を確認して避難させましょう。

### 水平避難と垂直避難

災害では早めの避難が重要です。ただし、すでに避難経路が浸水しているなど、危険が間近に迫っている状況での無理な避難行動はできるだけ避けなければなりません。そのような場合は、避難場所への移動(水平避難)だけでなく、近隣ビルの高層階や自宅の3階といった高い場所への移動(垂直避難)を行い、救助を待つという判断も必要です。

**危険な避難** (浸水した場所へ)

**避難場所への早めの避難(水平避難)** (高層ビルなどへ)

**高所への避難(垂直避難)** (高層ビルなどへ)